万国博特集号の発行に寄せて

橋本真吉

人間の社会に，より豊かな繁栄と実りをもたらすものとして発達してきた科学技術や工業・経済の発展は，その進歩の著しさのために，かえって人間社会の平安と調和を乱しつつあることを否定できません。

また，アポロ13号では，人間の生存の極限にあって，はからずも人間の英知と勇気が立証されましたが，刻々進む現代のエネルギー革命やエレクトロニクス革命のなかで，いかにして豊かな人間性を復活させるべきかは，われわれ人間にとって重要な課題となって参りました。

この時に開かれた日本万国博覧会のテーマが「人類の進歩と調和」であることは，まことに時宜を得たものと申せましょう。

このテーマのもとに，科学技術に立脚した21世紀の人類社会の姿や人間生活の未来像を表わす実験場として，文化に，芸術に，建築に花開いた万国博覧会には，各方面より多大の期待が寄せられております。

私ども日立製作所も，日立電線株式会社，日立金属株式会社，日立化成工業株式会社，新明和工業株式会社とともに，この意義ある日本万国博覧会に参加し，全日立グループ各社が，そのもてる技術を結集した日立グループ館をはじめ，会場内諸設備の建設，運営，管理などでその重要な一翼を担(にな)っております。

日立グループ館は〈追求——未知への招待〉をテーマとして，エレクトロニクス技術を駆使した「シミュレート・トラベル」や，世界にその比をみない大出力レーザー・カラーテレビジョンの公開を行なっております。

日立グループ館におけるこの私どもの企画が万国博覧会へご入場の全員の方々にご覧いただけないことはまことに残念ですが，毎日大勢の方々が，列をつくり館内の展示を熱心に見学されたり，参加されたりしていただいておりますことを深く感銘する次第であります。

この私どもの試みが契機となり，科学技術の未知への追求の気運が高まり，10年，20年，30年先に人類の進歩と調和に貢献される青少年層の方が，1人でも多く生まれれば，私ども関係者の喜び，これにすぎるものはないと考えております。

また，日立グループは，この日立グループ館のほかに，

会場内ではHITACコンピュータを核とするデータ通信の情報システムを通じて会場の運営，管理に貢献する一方，場内輸送の花形ともいうべきモノレールでも，新しい都市交通のモデルとして世界でも初めての全線全列車の自動運転方式を成功させて，ご来場の皆様のご好評をいただいております。

これら万国博覧会における日立の成果は，たゆまぬ研究努力を重ねた日立技術陣の開拓者精神による技術の成果であります。

このたび日立評論では，この万国博覧会に結実した日立の技術を特集し，更に万国博会場のふん囲気を伝える写真ページも添えて，ここに特別企画として万国博特集号を刊行することにいたしました。

ご高覧ご叱声いただければ幸甚に存じます。

（日立製作所取締役副社長　万博臨時本部長）